スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

兵庫県猪名川町

自 治 体 名 ： 兵庫県猪名川町
担 当 課 名 ： 猪名川町教育委員会学校教育課
電 話 番 号 ： 072-766-6006

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

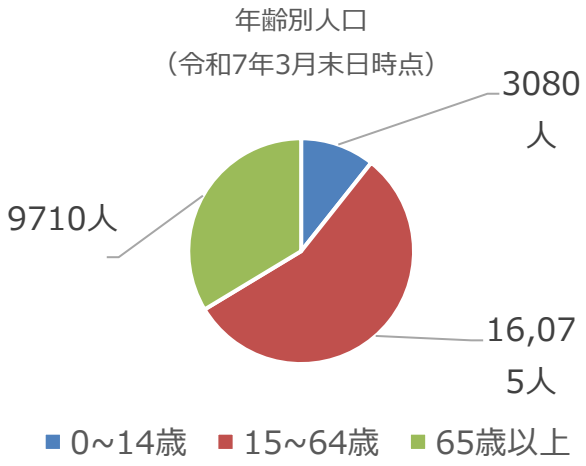
基本情報

面積	90.33㎢
人口	28,163人 （令和8年1月1日時点）
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	835人 （令和7年5月1日時点）
部活動数 （運動部活動のみ）	17部活
地域クラブ活動数	15クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

猪名川町では猪名川町スポーツ協会及びスポーツ少年団を中心に、さまざまな団体で中学生がスポーツに取組んでいる。しかし、地域クラブの中には指導者の後継者がいなかったり、単独で指導にあたっていたりする状況が見られる。また、猪名川町には民間のスポーツ施設も多くなく、大学も設置されていない。将来にわたって生徒がスポーツ活動に親しめる環境を整備するためには、継続的な指導者の確保とともに生徒自ら考える集団に育成していくが喫緊の課題である。

猪名川町立中学校2校のうち、1校は令和4年度に統合し開校された学校である。学校選択制を採用している新設中学校の校区は広く、中には10km以上離れたところから登校している生徒がいる。そのため、2ルートのスクールバスを運行し、自宅付近から学校へ通学している現状である。その他の生徒は、距離に応じて、徒歩及び自転車で通学している。





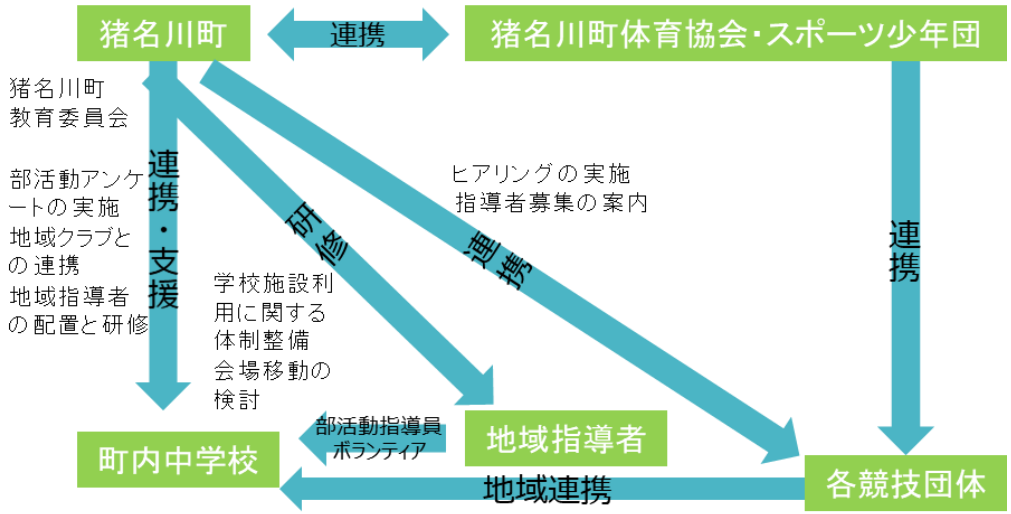
出典：猪名川町企画総部資料より作成

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（学校教育課）

・地域クラブ及び指導者の募集　・児童生徒・保護者・地域住民への取組の周知

・指導者研修会の開催　・アンケートやヒアリング等の調査の実施

◉教育委員会（教育振興課）

・施設利用体制整備　・備品貸出　・スクールバスの運行

・就学援助家庭への支援制度設計

◉コーディネーター

・地域クラブ指導者への情報伝達

・地域クラブ運営の支援

年間の事業スケジュール

令和7年4月

- スクールバスの運用を継続
- 陸上競技における民間企業との連携開始

令和7年5月

- 保護者説明会の実施

令和7年10月

- 大学生人材の派遣開始

令和8年1月

- 保護者説明会の実施
- 地域クラブ参加者、地域クラブ指導者、民間企業へのアンケート調査の実施

令和8年2月

- 地域クラブ認定要件の整備
- 兼職兼業要件の整備
- 地域クラブ活動補助事業の整備

令和8年3月

- 各小学校6年生対象の地域クラブ説明会の実施

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		15クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		8クラブ（13部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		7クラブ
全体の指導者数	43人	全体の運営スタッフ数	18人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
BS猪名川クラブ	地域団体	野球	・平日　3回 ・休日　1回	平日 16:30~18:30 休日 9:00~12:00	2年生17人 1年生8人	令和7年8月1日 ~	9人	1人	3,000円 /月額	地域クラブから参加
猪名川FCアランテス	一般社団法人アランテス	サッカー	・平日　4回 ・休日　1回	平日 17:00~19:00 休日 9:00~12:00	2年生15人 1年生10人	令和7年4月1日 ~	2人	2人	4,000円 /年額	中体連：部活動 その他：地域クラブ
FALCONS	個人事業	男子バスケットボール	・平日　3回 ・休日　1回	平日 18:00~20:00 休日 練習試合	2年生10人 1年生11人	令和6年4月1日 ~	1人	1人	4,800円 /月額	地域クラブから参加

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●各地域クラブにて随時体験会を実施。

2.実証内容と成果

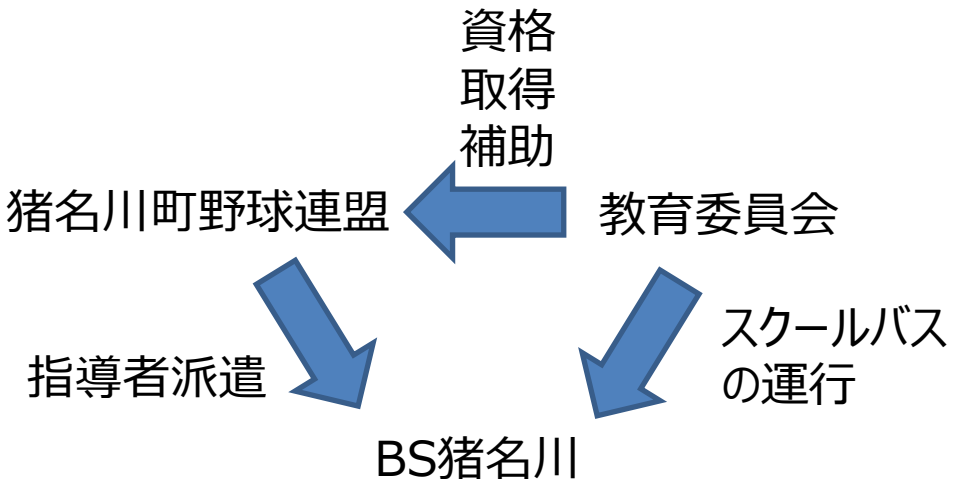
スポーツ庁

主な取組例

●BS猪名川　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球
運営団体名	地域団体
期間と日数	平日　3回　休日　1回
指導者の主な属性	教員、猪名川町少年軟式野球連盟
活動場所	清陵中学校
主な移動手段	自転車、スクールバス
1人あたりの参加会費等（年額）	36,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●猪名川町教育委員会

役割：指導者の資格取得補助、スクールバスの運行、活動環境整備を行う。

●統括責任者

役割：指導者派遣の調整、中体連登録を行う。

●指導者　9名

役割：参加者への技術指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 地域クラブ活動の企画・運営に子どもたちが参画する機会の創出。
- 地域クラブ活動の要件の明確化し、地域クラブの登録団体・指導者の募集を行う。
- 地域クラブ活動の運営にICTやアプリケーションを活用する。
- コーディネーターを通じて関係団体等の連携を図る。
- 認定地域クラブへの補助金交付を通じ、持続可能な運営体制の整備。

今後の取組における課題

- コーディネーターを含めた関係者の連絡体制の構築。
- 地域クラブの認定事務の主管の設置。
- 地域クラブ活動の運営の財源確保と持続可能な運営体制の充実
- 子どもたちが地域クラブ活動の企画・運営にかかわる機会の充実。
- 子どもの多様なニーズに応じた活動機会のさらなる充実。

取組の成果

- 複数の地域クラブにおいて、アンケートで子どもが意見を出したり、練習プログラムを子どもが考えて実施したりする等、地域クラブ活動の運営に子どもたちが参画することができた。
- ICTを活用した施設利用予約システムを構築することができた。
- 地域クラブ認定要件を整備し、地域クラブ運営者及び指導者対象の説明会を実施した。

課題への対応方針

- 認定地域クラブ運営者や指導者を対象とした研修・情報交換の機会を充実させ、運営力及び指導力の向上を図る。
- 首長部局と連携し、今後の地域クラブの認定事務の主管を模索する。
- 生徒、保護者アンケート等を活用し、地域クラブ活動の改善につなげるPDCAサイクルを構築する。
- 「子ども主体の地域クラブ活動」について、担当者会等を通じて周知する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

- コーディネーターが地域クラブを視察し、運営者・指導者へのヒアリングを行う。
- ヒアリングによって得られた意見を教育委員会に報告。
- 回答をコーディネーターを通じて地域クラブ運営者・指導者に伝達する。
- 必要に応じて、コーディネーター・地域クラブ運営者・指導者、教育委員会にて会議を設定する。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 学期に1回、各地域クラブを訪問し、活動状況や実施体制、安全管理の状況を確認する。
- 活動場所や指導体制、安全対策について確認を行い、必要に応じて改善に向けた助言を行う。
- 運営団体との情報共有を密にし、安全で安心して活動できる環境づくりを支援する。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- コーディネーターが地域クラブを定期的に訪問し、運営者・指導者へのヒアリングを実施するとともに、運営上の課題やニーズの把握に努める。
- 各地域クラブで参加者の出欠確認、会費の納入等ができるアプリを導入している。
- アプリ未導入の地域クラブへ導入事例を紹介し、運営効率化に向けた支援を行う。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- 活動中の生徒同士のトラブルや事故等の対応を含め管理責任の主体について明らかにするよう各地域クラブに要請する。
- 生徒指導事案や事故等が発生した際には、各校、各地域クラブ、教育委員会が連携して対応にあたる。
- トラブル事例を地域クラブ間で共有し、安全管理体制の強化と事故の未然防止につなげる。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- スポーツドクターによる熱中症対策研修及びスポーツ外傷・応急処置研修を実施し、安全管理に関する知識の向上を図った。
- 指導者資格取得を促進するため、資格取得に要する経費の一部を補助した。
- 地域クラブへ研修会や資格取得制度に関する情報提供を行い、積極的な参加を呼び掛けた。

今後の取組における課題

- 指導者研修会にすべての指導者が参加することができなかった。
- 研修に参加した指導者の研修履歴を保存するシステムを構築することができなかった。
- 資格を取得できる研修会の日程と開催場所が限定的であるため、取得を希望する指導者が研修会に参加できないケースが見られた。

取組の成果

- 指導者の資格取得者が3名増加。（バレーボール、ソフトテニス、野球）
- 熱中症対策や応急処置に関する知識が向上し、安全意識の醸成につながった。
- 指導者の資質向上に向けた研修受講への意識が高まり、継続的な学びの機運が醸成された。
- 資格取得支援制度により、地域クラブにおける指導体制の充実につながった。

課題への対応方針

- オンライン研修やオンデマンド配信を活用し、時間や場所に制約されない受講環境を整備する。
- 指導者の研修受講履歴や資格取得状況を把握できる仕組みの構築を検討する。
- 資格取得費用の支援を継続し、指導者の資質向上及び資格取得を促進する。
- 指導者研修を継続的に実施し、安全で質の高い指導体制の構築を図る。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 大学生の活用促進を図るため、近隣大学（宝塚医療大学）との連携について情報収集を行い、地域クラブ活動への参画に向けた検討を進めた。
- 民間企業と連携し、トップアスリートや専門的な知識・技能を有する人材を地域クラブへ派遣する仕組みづくりについて検討を行った。

指導者研修の内容

研修名	打撲・捻挫・肉離れ ～スポーツ現場でよくある外傷の病態と対処法～
講師	兵庫県立加古川医療センターリハビリテーション科職員
研修内容	【講義】 • 打撲の病態と対処法 • 捻挫の病態と対処法 • 肉離れの病態と対処法 【デモンストレーション】 • アイシングの実際 • ストレッチの基本形

指導者研修受講者の声

本研修会は、対面とオンライン配信のハイブリッド形式で実施した。そのため、対面のみでの開催としていた前年度に比べ、多くの指導者が参加することができた。受講者からは、「対面のみでの開催では参加に対してハードルが高くなってしまう。今回のようにオンラインでも配信してもらえたことで、参加できた指導者もいたのではないかと思う」との意見が見られた。

●参加者の声

参加者①
発達途上にある中学生が、ケガを理由に競技をやめてしまうケースをこれまでに何件か見てきた。高いレベルでプレーすることも大事だが、将来にわたったスポーツ親しんでもらえるように指導していきたい。

参加者②
練習中に打撲や捻挫と思われるけがをする生徒がこれまでにもいたが、今日学んだような初期対応ができていなかった。けがせずに練習し続けられることが一番だと思うが、けがをしてしまったときの対処法を子どもたちが身に付けられるよう指導していきたい。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者の資格取得促進に向けた取組

- 県中体連主催大会への出場要件に記載されている資格を中心に、資格取得に要する受講料や登録料等の費用に対して補助を行い、指導者の資質向上及び資格取得を支援した。
- 地域クラブ運営者へ資格取得制度や研修会に関する情報提供を行うとともに、積極的な資格取得を促し、安全で質の高い指導体制の整備を図った。
- 資格取得者が地域クラブ内で知識や技術を共有できる環境づくりを進め、指導力の底上げにつながる取組を実施した。

指導者総数	43人
資格所持指導者数	15人
本年度資格を取得した指導者	3人

平日・休日の一貫指導に関する取組

- 多世代が参加できる地域クラブの環境整備を進めることで、中学生から一般まで継続してスポーツに親しめる体制づくりを推進し、平日・休日を通じた一貫指導を目指した。
- 中学校部活動と地域クラブが合同で練習する機会を設け、学校と地域クラブの指導者が連携しながら指導方法や選手育成について情報共有を行った。
- 地域クラブの指導者が平日の学校部活動にも関わる機会を設けることで、生徒一人ひとりの成長段階に応じた継続的な指導体制の構築を図った。
- 学校・地域クラブ・教育委員会が連携し、活動内容や指導方針の共有を進めることで、生徒が安心して継続的に活動できる環境整備に努めた。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 体育・スポーツ協会、大学、民間企業等の関係機関と連携し、多様な専門人材を地域クラブへ派遣する体制を整備した。
- 体育・スポーツ系大学と連携し、大学生を地域クラブへ派遣することで、生徒の競技力向上や指導補助、人材育成につながる取組を実施した。
- スクールバスを活用した移動支援について、学校・運営団体と運行方法や利用体制の調整を行い、生徒が希望する地域クラブへ参加しやすい環境整備を進めた。

取組の成果

- 体育・スポーツ系の大学と連携し、3名の大学生を派遣した。
- 大学生との練習について子どもからは、「自分よりもレベルの高い人と練習できるよい機会だった」「練習をサポートしてもらえているので、スムーズに練習できる」と肯定的な感想を述べられており、練習の質的向上が見られた。
- 満足度は94.7%だった。
- 民間企業と連携事業として、トップアスリートによる指導事業を実施した。
- トップアスリートによる指導について、「わかりやすく教えてくれるので、自信がついた」「教えてもらったことを日ごろからの練習に生かしています」と肯定的な意見が多く見られた。

今後の取組における課題

- 大学生を派遣するまでの手続きに時間を要し、派遣する時期が当初の予定より遅れた。次年度の派遣に向けて、派遣事務手続きや派遣前研修の実施等を計画的に実施する必要がある。
- 今回は、トップアスリートによる指導事業を屋外競技で実施した。上期には熱中症対策や悪天候対応、下期には感染症対策に追われ、当初の計画通りには実施できなかった。実施時期や実施回数の検討が必要である。
- スクールバスを活用したことで希望する地域クラブに参加できた子どもがいる一方で、地域クラブ活動後の送迎は保護者に頼らなければならない状況でもある。スクールバスの運行計画について検討が必要である。

課題への対応方針

- 今年度は大学1年生を中心に募集をかけたことから、派遣手続きに時間を要したことが考えられる。学生の新規獲得とともに、継続的に指導に携われるよう支援していくことで切れ目のない派遣を目指す。
- トップアスリートによる指導事業の実施時期を見直す。
- スクールバスの運行状況をふまえた地域クラブ活動の実施となるよう各地域クラブに依頼する。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 町内の中学校に設置しているすべての運動部活動を平日・休日問わずに地域クラブへ移行するために、地域クラブの募集及び地域クラブとの連携を促進する。
- 隣接市町との広域連携を推進するための会議の設定や合同練習会を実施する。

取組の成果

- 町内に設置しているすべての運動部活動（17部活動）において、平日・休日を問わない地域展開・地域連携の取組を開始し、すべての競技で地域クラブ活動へ移行する体制を整備することができた。
- 隣接市町と連携した合同練習会を年12回実施することができた。
- 広域連携を通じて各市町の取組や課題を共有することができ、今後の地域クラブ活動の運営や制度設計に向けた知見を得ることができた。

今後の取組における課題

- 平日・休日を問わない地域展開を継続的に推進するためには、地域クラブ運営の中心となる指導者や運営スタッフの確保・育成が不可欠であり、競技によっては人材不足が課題となっている。
- 地域クラブの持続可能な運営を実現するため、学校・地域クラブ・教育委員会の役割分担をより明確にするとともに、安定した運営体制を構築する必要がある。
- 隣接市町との広域連携をさらに推進するためには、各市町における認定制度や施設利用、保険、費用負担等の運営ルールについて情報共有を図り、共通認識を持つことが必要である。

課題への対応方針

- 持続可能な地域クラブ運営体制の構築に向け、行政・学校・地域クラブ・関係団体によるワーキンググループを設置し、役割分担や運営上の課題について継続的に協議を行う。
- 指導者の確保・育成を推進するため、資格取得支援や研修会の充実を図るとともに、大学・体育協会・民間企業等との連携による多様な人材の確保を進める。
- 隣接市町との定期的な情報交換会を継続し、広域連携における制度や運営方法について共通理解を深めるとともに、合同練習会や交流事業を継続的に実施する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

市区町村等を越えた取組

- 競技ごとに単独での活動が困難な地域クラブについては、広域連携による合同練習を実施し、生徒の活動機会の確保と競技力向上を図った。
- 広域連携を通じて、生徒同士や指導者同士の交流を促進するとともに、各市町の運営方法や課題を共有し、持続可能な地域クラブ活動の推進に取組んだ。
- 将来的な広域での地域クラブ運営を見据え、隣接市町との連携体制の構築や相互協力の仕組みづくりを進めた。

指導者の声①

合同練習として行っておりいつもと違うメンバーで定期的にできることもありがたいです。はじめは緊張でぎくしゃくしていることもありましたが、だんだんと顔見知りになり親しくなっている生徒たちも出てきて、全体の雰囲気も和やかになっているように感じます。

指導者の声②

普段は大会でしか交流がない子どもたちですが、定期的に練習会を実施することで、交流の輪に広がりが見られました。ライバルとの交流は、普段のしんどい練習の時にもああと一歩、あと1本頑張るためのモチベーションにつながっているように感じられます。







2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

- 子ども・保護者の声を地域クラブ活動に反映させるために、アンケート調査やヒアリング等を実施。
- 子どもたちが地域クラブ運営会議に参加する機会を設ける。
- 世代間交流を推進するために、大学生を派遣。
- 地域展開の取組について理解促進を図るために、生徒・保護者等へ説明する。

取組の成果

- アンケート調査を3クラブで実施。
- 地域クラブ説明会を年間15回実施。
- 体育・スポーツ系大学在籍の大学生を3名派遣。
- アンケート調査や説明会を重ねることに、生徒の地域移行に関する理解が深まった。
- 世代間交流に関する生徒の満足度は94.7%だった。

今後の取組における課題

- これまでは各中学校において生徒による部活動紹介が実施されていたが、今後は地域クラブの活動内容や特色をどのように周知し、生徒・保護者に理解を深めてもらうかが課題である。
- 地域クラブごとに活動内容や受入体制が異なるため、統一した情報提供の方法を検討し、参加を希望する生徒が必要な情報を得られる環境を整備する必要がある。
- 地域移行に対する不安や疑問を解消するため、生徒・保護者・学校・地域クラブが継続的に情報共有できる機会の確保が求められる。

課題への対応方針

- これまで各中学校で設定されていた仮入部期間を参考に、同様の時期に各地域クラブにおいて体験会や見学会を開催し、活動内容を直接知る機会を設ける。
- 地域クラブの活動内容、活動日、費用、指導体制などを一覧化した資料を作成し、学校説明会やホームページ等を活用して、生徒・保護者へ分かりやすく周知する。
- 地域クラブ、学校、教育委員会が連携し、アンケートや意見交換を通じて課題を把握するとともに、必要に応じて取組内容の見直しや改善を図る。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 年間8回の保護者説明会を実施し、学校部活動から地域クラブ活動への移行の目的や概要、受益者負担の考え方について説明を行った。
- 地域クラブ活動に必要となる会費や保険料、用具費等の費用例を示し、保護者からの質問や意見を受けながら理解促進を図った。
- 地域クラブ活動における経済的負担への不安を把握するため、説明会や個別相談の機会を設け、保護者の意見収集を行った。。

今後の取組における課題

- 実施されている地域クラブ活動にかかる費用について、活動内容や競技種目ごとの実態を把握するため、調査項目や調査方法を検討する必要がある。
- 受益者負担の水準について、保護者の経済的負担に配慮しながら、公平性や継続性を踏まえた制度設計を進める必要がある。
- 経済的な理由により地域クラブ活動への参加機会が制限されることがないよう、支援制度のあり方についても検討を進める必要がある。

取組の成果

- 学校部活動と地域クラブ活動のそれぞれの運営方法や費用負担の考え方について、保護者の理解が進んだ。
- 説明会を通じて、地域移行に伴う受益者負担に関する質問や意見を把握することができ、今後の制度検討に向けた基礎資料を得ることができた。
- 保護者との意見交換を重ねることで、地域クラブ活動への移行に対する理解が深まり、今後の円滑な地域移行に向けた共通認識の醸成につながった。

課題への対応方針

- 地域クラブ活動への移行検討会議において、調査項目や調査方法について検討するとともに、競技種目ごとの費用実態を把握するためのアンケート調査を実施する。
- 調査結果を分析し、保護者負担の実態や課題を整理した上で、受益者負担の考え方や支援制度について検討を進める。
- 国・県の補助制度や他自治体の取組事例も参考にしながら、誰もが継続して地域クラブ活動に参加できる環境整備に向けた支援策を検討する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

- ICTを活用した学校施設予約システムを構築し、地域クラブが学校施設を円滑かつ公平に利用できる環境整備を進めた。
- 学校体育館や運動場等の夜間照明設備について点検・整備を実施するとともに、地域クラブ活動で継続的に活用できる運用体制を整えた。
- 用具等の保管スペースを確保するとともに、学校備品の貸出しや管理方法、利用ルールについて関係者間で協議し、運用に関する規程の整理を行った。
- 学校、地域クラブ及び行政が連携し、学校施設の利用時間や利用方法について調整を行い、地域クラブ活動が円滑に実施できる環境づくりを進めた。

取組の成果

- ICTを活用した学校施設予約システムを令和8年4月から本格運用する体制を整備し、施設利用の効率化及び予約手続の利便性向上を図った。
- 本年度の全地域クラブ活動のうち86.6%が学校施設を利用して実施され、地域クラブ活動の拠点として学校施設が有効に活用された。
- 学校施設を利用して屋外で活動するすべての地域クラブが夜間照明設備を活用し、安全な活動環境の確保につながった（活用率100%）。
- 学校施設や学校備品の利用ルールを整理したことで、学校と地域クラブとの調整が円滑になり、施設利用に関する理解促進と効率的な運営につながった。

今後の取組における課題

- 夜間照明設備を整備した施設についても、参加者及び指導者が安全・安心に活動できるよう、施設管理や安全対策を含めた運営体制を整備する必要がある。
- 地域クラブ活動の拡大に伴い、学校施設の利用希望が増加することが見込まれるため、公平かつ効率的な施設利用方法について継続的に検討する必要がある。
- 学校施設や学校備品を長期的に活用するため、維持管理や更新に係る費用負担及び管理体制について整理を進める必要がある。

課題への対応方針

- 行政、地域クラブ及び学校の三者によるワーキンググループを設置し、学校施設の利用調整や環境整備、安全管理について継続的に協議を行う。
- 学校施設予約システムの運用状況を定期的に検証し、利用者の意見を踏まえながら、予約方法や運用ルールの改善を図る。
- 学校施設及び学校備品を継続的に活用できるよう、維持管理体制や更新計画について関係機関と協議を進め、地域クラブ活動を支える施設環境の充実を図る。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- 地域クラブ活動における学校施設の利用について、ICTを活用した予約システムを構築・運用し、利用申請から承認までの手続きをデジタル化した。これにより、これまで電話や紙媒体で行っていた予約調整に係る事務負担を軽減するとともに、学校、地域クラブ、関係団体がリアルタイムで施設の空き状況を確認できる環境を整備した。また、予約の重複や調整漏れの防止につながり、施設利用に関するトラブルの減少や、より公平で円滑な施設運用を実現した。
- 施設利用後には利用状況を確認し、学校施設の安全管理や適切な維持管理に努めた。利用団体との連携を密にすることで、施設の破損や不具合等について迅速に情報共有を行い、安心・安全な活動環境の維持につなげた。

用具使用・管理等における取組

- 地域クラブの活動時間が夜間に及ぶことを踏まえ、学校体育施設等の夜間照明設備を整備・活用した。これにより、日没後においても十分な明るさを確保し、安全に活動できる環境を整備するとともに、活動時間の拡充を図ることで、地域クラブの継続的な運営を支援した。
- 地域クラブで使用する用具については、専用の保管スペースを確保するとともに、学校備品との区分管理を行い、紛失や破損の防止に努めた。また、貸出・返却方法や使用後の点検・整理整頓などについて運用ルールを定め、利用団体へ周知・徹底することで、適切な備品管理体制を構築した。
- 学校と地域クラブが施設や備品を共同で利用するに当たり、利用者間でのマナーや利用上の留意事項について共通理解を図った。定期的な情報共有を行うことで、利用者の施設を大切にする意識が高まり、学校教育活動と地域クラブ活動が互いに支障なく実施できる環境づくりを推進した。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

- 地域移行の一環として、これまで休日を中心に実施していた地域クラブ活動に加え、平日における学校部活動の地域クラブへの移行を実施した。学校、地域クラブ、関係団体及び指導者との連携を図りながら、活動日程や運営方法、施設利用等について調整を行い、生徒がこれまでと同様に継続して活動できる体制の整備を進めた。また、生徒・保護者への周知や説明を行い、円滑な移行に向けた理解促進に努めた。

今後の取組における課題

- 平日・休日を問わず持続可能な地域クラブ活動を推進していくためには、地域クラブ運営の中心となる指導者の確保・育成が不可欠である。特に、専門的な指導力を有し、継続的に活動へ参画できる人材が不足していることから、安定した運営体制の構築が課題となっている。また、指導者への負担軽減や活動時間の調整、学校と地域クラブとの情報共有体制の充実など、円滑な運営に向けた仕組みづくりも引き続き必要である。

取組の成果

- 全体の76.4%の部活動において、休日の地域クラブ活動に加え、平日の部活動についても地域クラブ活動として実施することができた。これにより、学校と地域が連携した新たな活動体制の構築が進み、生徒が継続してスポーツ・文化活動に取り組める環境を整備することができた。また、地域指導者が活動へ参画することで、多様な指導を受ける機会が増えるとともに、地域全体で子どもたちの成長を支える意識の醸成にもつながった。

課題への対応方針

- 引き続き、地域クラブ及び指導者の確保に向けた募集活動を行うとともに、地域の競技団体、文化団体、大学、企業等との連携を強化し、多様な人材の参画を促進する。また、指導者研修や情報共有の機会を充実させ、指導力の向上と安全管理の徹底を図る。さらに、学校、教育委員会、地域クラブが定期的に協議する場を設け、運営上の課題を共有・改善しながら、持続可能な地域クラブ活動の実現に向けた体制整備を進めていく。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度は指導者の確保、持続可能な運営体制の構築を中心に、体育・スポーツ系の大学と民間企業との連携を進めた。派遣先の団体は限定的であったが、プログラムに参加した生徒の満足度はそれぞれ90%を超えた。また、指導者の満足度も生徒同様に90%を超えた。民間企業等との連携では、トップアスリートから直接指導を受けられる機会を得られただけでなく、活動当初から「自分で考える」というテーマを打ち出して事業を展開した。回を重ねるごとにより主体的になる生徒の姿が見られ、民間企業担当者からも「主旨や目指すところは理解できたと感じている」と感想を述べられた。次年度も継続して取組みたい事業である。

一方で、取組を進める中で課題も見られた。大学生の派遣では、スムーズな派遣手続きの構築と派遣を希望する団体とのマッチングについて、民間企業との連携では、熱中症対策や感染症対策等について、新たな仕組みが必要となった。

その他、継続して取組んできた事業については、関係者の理解に深まりが見られた。

●成果の評価

地域移行当初から課題となっていた地域クラブや指導者の確保、活動場所や移動手段の確保については、実証事業を通じて一定の成果を上げることができた。また、学校、地域クラブ、関係団体が連携を深めることで、地域全体で子どもたちの活動を支える体制づくりが着実に進んだ。各地域クラブでは、それぞれの地域の実情に応じた運営方法を工夫し、生徒が継続して安心・安全に活動できる環境の整備につながった。また、地域指導者の参画により、専門的な指導や多様な活動機会が提供され、地域クラブ活動の充実が図られた。一方、本事業は実証事業による補助金を財源として進められているため、今後も継続していくためには、持続可能な運営体制の構築や新たな財源の確保が必要である。実証事業で得られた成果や課題を生かしながら、学校と地域が連携した持続可能な地域クラブ活動の実現に向けて、引き続き取組を進めていく必要がある。

●今後に向けて

猪名川町では令和8年4月より、多くの部活動が平日・休日問わず地域クラブ活動に移行される。本年度連携が進められた大学や民間企業とは引き続き事業を継続し、より一層の指導者の確保を目指す。一方、スクールバスを活用した生徒送迎について、現在は、地域クラブ開始時刻に合わせての運行のみで、終了時刻に合わせた運行を実施していない。運行ルートや運行スケジュールを調整し、すべての子どもたちが希望する地域クラブに参加することができる体制を整備していきたい。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参考資料



【スクールバスの活用】



【保護者説明】



【夜間照明を活用した活動】



【大学生人材の活用】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年 → 令和6年 → 令和7年 → 令和8年

地域展開について検討開始 → 受皿団体や指導者の募集選定、活動場所の確保 → 生徒、保護者、関係団体へ説明 → 地域クラブ連携を開始 → 地域クラブ活動の開始 → 平日・休日問わない地域移行を実施

●ステークホルダー

猪名川町教育委員会、首長部局、各中学校、猪名川町スポーツ協会、猪名川町スポーツ少年団、民間スポーツ関係者

●経過（地域展開の方向性の検討）

中学生年代の部活動以外のスポーツ環境や指導のありかた等について調査を実施し、猪名川町の今後の生徒数の増減やスポーツ環境等について情報を収集した。これらの情報をもとに、「持続可能で生徒にとって豊かなスポーツ環境を提供していく」ことを目標に設定した。

●実施にあたって生じた課題

地域クラブと指導者の確保が課題である。

●実施内容

- 猪名川町内のスポーツ関係者を対象に説明会を開催
- 説明会参加団体との個別面談を実施
- スポーツクラブ指導者と学校部活動を視察

●ステークホルダー

猪名川町教育委員会、首長部局、各中学校、猪名川町中体連、猪名川町スポーツ協会、猪名川町スポーツ少年団、民間スポーツ関係者、体育・スポーツ系大学

●経過（関係者への周知）

令和6年4月より16団体で地域クラブ活動が始まる。児童生徒、保護者を対象に説明する機会を設け、今後の地域移行について周知を図った。地域クラブ活動への移行検討会を設置し、地域移行の取組について評価点検を行った。

●実施にあたって生じた課題

より多くの方々へ周知することが課題である。

●実施内容

- 保護者への説明を実施（年4回）
- 児童生徒への説明を実施（年8回）
- 地域クラブ活動への移行検討会を実施（年1回）

●ステークホルダー

猪名川町教育委員会、首長部局、各中学校、猪名川町中体連、猪名川町スポーツ協会、猪名川町スポーツ少年団、民間スポーツ関係者、体育・スポーツ系大学

●経過（指導者の獲得）

大学生人材の獲得を目指して、近隣の大学を訪問する。連携先となった大学の学生を対象にオリエンテーションを行った。大学と教育委員会双方で派遣する大学生に研修を行った後に、地域クラブへの派遣を開始した。

●実施にあたって生じた課題

参加希望の学生と派遣を希望する地域クラブをマッチングする体制の構築が課題である。

●実施内容、工夫した点 等

- 大学訪問（年4回）
- 学生対象のオリエンテーション（年1回）

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

